

# 令和元(2019)年度 病害虫発生予報 第10号

令和2(2020)年1月24日  
栃木県農業環境指導センター

## 天候の変化に対応した施設管理を行い、病害虫の発生を抑えましょう。

予想期間 1月下旬～2月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比40%：ほ場率、平年比100%：株率)。(－)  
・向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。  
・発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・発生状況に応じてフルピカフロアブル等を葉裏にもよくかかるよう散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

### 2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比92%：ほ場率、平年比79%：株率)。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。  
・気門封鎖剤や天敵製剤を活用するとともに、化学農薬のローテーション散布を行うことで抵抗性の発達を抑制する。  
・気門封鎖剤は、5日程度の間隔をおき複数回散布する。  
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

### 3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比86%：ほ場率、平年比67%：株率)。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・低密度のうちにマツ乳剤[シキアザミ]等のIGR剤を散布する。  
・花を観察して、1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、ディアナSC等を散布する。
- (4) 備 考 ・秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設では、注意が必要である。  
・[防除のポイントNo.19](#)、[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや多い(平年比170%：ほ場率、平年比100%：株率)。(＋)  
・向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。  
・発病葉、発病果や花弁は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・発生状況に応じてベルコートフロアブルやジャストミート顆粒水和剤等を葉裏にもよくかかるように散布する。  
・微生物防除剤(ボトキラー水和剤等)は発病前～発病初期に使用する。また、低温条件では効果が出にくいので、施設内温度は10℃以上を確保する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

## 5 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比 112%：ほ場率、平年比 50%：葉率）。(±)  
・向こう 1 か月の平均気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・施設内外の除草を徹底する。  
・黄色粘着板を設置し、トマト黄化葉巻ウイルス保毒虫の捕殺と発生状況の把握に努める。発生が見られた場合には、成虫にも効果の期待できるアニキ乳剤、コルト顆粒水と和剤等で防除する。  
・生育に応じて葉かきを行い、幼虫を除去する。除去した葉は放置せず、ビニル袋等で密閉して完全に枯死・死滅させてから処分するか、土中に埋める。
- (4) 備 考 ・[果菜類に発生したタバココナジラミの薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

## 6 には 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 ・発生量： **多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は多い（平年比 411%：ほ場率、平年比 170%：株率）。(＋)  
・向こう 1 か月の降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないよう、日中に適度な換気を行う。  
・捨て刈りした葉は伝染源となるため、施設外に持ち出し、適切に処分する。  
・発生状況に応じてアフエットフロアブル等を散布する。

## 7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	うどんこ病	平年並	<b>やや多</b>	たまねぎ	べと病	－	<b>やや多</b>
	アブラムシ類	やや多	<b>多</b>	きく	白さび病	多	<b>多</b>
トマト	黄化葉巻病	多	<b>多</b>		ハダニ類	平年並	<b>やや多</b>
きゅうり	うどんこ病	平年並	<b>やや少</b>				

ORAC コードを参考に、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。  
○花粉媒介昆虫(ミツバチ、マルハナバチ)や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。

ミツバチ・天敵等に対する農薬の影響の目安①、②、③を栃木県農作物等病害虫雑草防除指針 参考資料に掲載中。<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/tochigi>

○11月1日から1月31日は、「栃木県農薬危害防止運動期間」です。農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

### 1か月気象予報（予報期間1月25日から2月24日 1月23日気象庁発表）

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 60%です。降水量は、多い確率 60%です。日照時間は、少ない確率 60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率 50%です。2週目は、高い確率 70%です。3～4週目は、高い確率 50%です。

### 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10%	30%	<b>60%</b>
降水量	10%	30%	<b>60%</b>
日照時間	<b>60%</b>	30%	10%

詳しくは農業環境指導センター (Tel 028-626-3086) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。